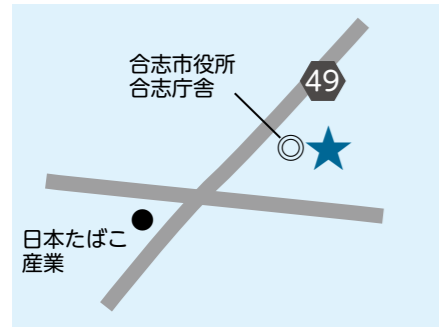


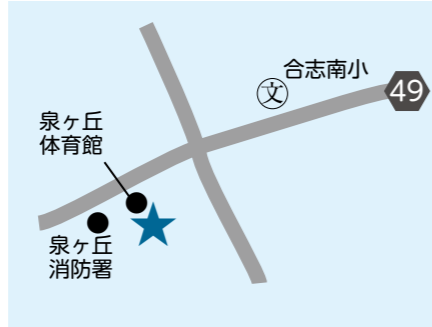
自主避難所

災害の規模に応じて、市内9カ所（最大22カ所）の避難所を開設します。自主避難や避難勧告など、市や消防、警察などの指示があったときは速やかに避難してください。なお、避難勧告が出されていなくても、危険を感じた場合はすぐに安全な場所に避難してください。

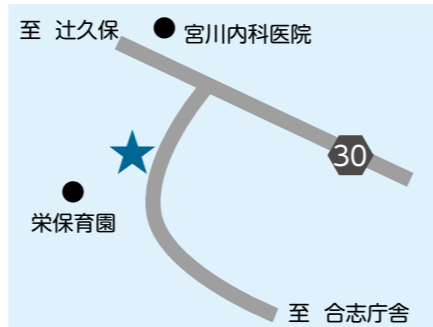
避難所が開設された場合は、防災行政無線や防災お知らせメール、市ホームページでお知らせします。



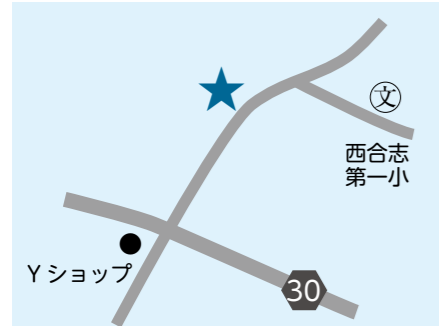
①総合センター ヴィーブル
(1階福祉会館大広間)
福原 2922 ☎248-5555



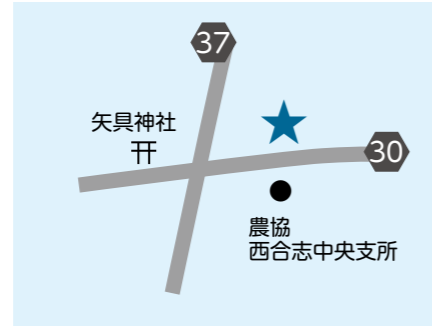
②泉ヶ丘市民センター (1階和室)
幾久富 1947-7 ☎248-3453



③福祉センター みどり館 (1階和室)
栄 2371 ☎248-0400



④合生文化会館 (和室)
合生 3616 ☎242-3218



⑤野々島公民館 (和室)
野々島 4855 ☎242-1636



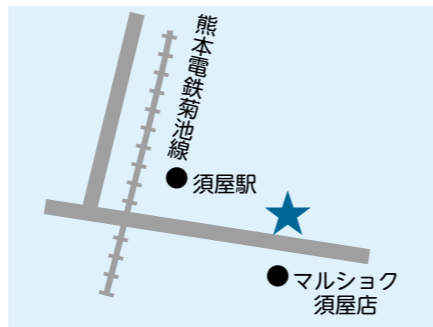
⑥御代志市民センター (2階和室)
御代志 1661-16 ☎242-1190



⑦保健福祉センター ふれあい館
須屋 2251-1 ☎242-7000



⑧黒石市民センター (和室)
須屋 2788 ☎242-2321



⑨須屋市民センター (和室)
須屋 1399 ☎346-4112

— 避難の心得 —

- ・家族で避難場所を決めておく (離れている場合は家族に知らせる)
- ・家の戸締りや火の元を確認して避難する
- ・歩いて避難し、消防車や救急車などの通行に協力する
- ・荷物はリュックサックに入れて背負うなど、動きやすいよう心掛ける
- ・近所の人と協力して要援護者の避難に協力する

災害はいつ発生するか分かりませんが、日ごろの備えをしっかりと行ない、自分や家族だけでなく隣人や地域の様子にも目配りしておくことが大切です。

災害時も平常時も、地域の結びつきが重要な役割を果たします。地域のつながりはお互いを助け、大きな災害から身を守る最大の武器になります。自分の安全を確保したら、次は隣人に目を向けてみませんか。住民一人一人の防災意識を高めることで、いざというときに機能する防災力の高い地域を目指しましょう。

特集 ⑨

カギになるのは



県危機管理防災課
つみ まさほる
参事 堤 正治 さん

自らの備えと

地域の防災力

早めの情報収集
台風は進路や接近日時がある程度分かれますが、雨は状況が急に変化することもあります。特に天気予報の「激しい雨」「猛烈な雨」というキーワードには敏感になってほしいですね。自動的に情報が入る携帯メールシステムの利用や、気象用語を正しく理解することも大切です。例えば、「土砂災害警戒情報は、「土砂災害の危険が迫っております。意味をよく理解し、避難判断にうまく活用してください。」

予防的避難
大雨や暴風時の避難は非常に危険です。明るいうちに早めに避難する「予防的避難」を心掛けてください。

合志市で心配な水害は、主に水路の氾濫による道路冠水などの内水氾濫ではないでしょうか。道路が冠水する前に予防的避難を行なうことが最善ですが、避難の遅れにより屋外に避難できない状況になったら、家屋の2階があれば2階に垂直避難を。普段から、避難するときの持ち出し品をリスト化しておくことも避難の迅速化につながります。

地域の防災力を高める
大きな災害では、消防・警察などの公助が現場に到着するまで時間がかかる場合があります。このため、自助・共助の取り組みが非常に重要になってきます。

昨年の長野県北部地震では、白馬村で40棟以上の家屋が全壊したにもかかわらず死者が出ませんでした。これは、地元の自主防災組織が高齢者の所在地などの情報をよく把握し、倒壊家屋内の的確な情報を公助側に迅速に提供できたことが人命救助につながったケースです。自主防災組織は消防職員などプロのような活動ではなく、ちよつとした声掛けや避難誘導、救助の手助けなど、誰でもできる活動を地域の中心となつて行なうことが期待されています。

自主防災組織にしかできない、地域に精通した住民組織による初動対応が被害の軽減につながるわけです。また、平常時に、地域行事などさまざまな機会を捉えて住民へ意識啓発することも自主防災組織ならではの活動です。

県では本年度まで新規設立の自主防災組織へ補助金(※)を交付していますので、ぜひ活用してほしいですね。

※詳しくは市総務課交通防災班(☎248-1111)までお尋ねください。



日本大震災をきっかけに、平成24年から毎年防災訓練を行なっています。災害放送、放水訓練、炊き出し訓練、心肺蘇生法の講習など、消防団や医療機関の協力も得て実施。また、区内各戸への安否確認は全世帯参加型です。

自助から共助へ、一人一人ができることを考えてもらう意識付けのための訓練です。

毎月防災訓練を実施しています。火災、台風、地震、不審者対策など毎回テーマを変え、時には消防署に指導してもらったり、いざというときに子どもたちが混乱しないよう訓練しています。4月は新入園児にとつて初めての訓練だったので、先生が子どもたちに基本的な注意を呼びかけたり、避難経路を確認したりしました。

地域でも自主訓練が行なわれています



黒石団地区自治会



福岡健彦 区長

六華保育園
佐藤純子 園長